

国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度

ガバナー月信

No.6
2008
12

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008-2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



国際ロータリー第2510地区
2008～2009年度 ガバナー 矢橋 温郎 HARUO YAHASHI

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F
TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 e-mail:rid2510@nifty.com
ホームページ: <http://www.ri2510.gr.jp>



RI国際協議会(カルフォルニア、サンディエゴ)にて

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

目次

CONTENTS

- 1 ————— ガバナーメッセージ
- 2 ————— 李東建国際ロータリー会長メッセージ
- 3 ————— 第36回 ローターアクト地区協議会
- 4 ————— 国際ロータリー第2510地区 2008-09年度地区大会Photo
- 6 ————— 地区大会回顧
- 7 ————— 地区大会を振り返って
- 8 ————— ヴィセンテ J. カルロスRI会長代理ご夫妻をお迎えして
- 9 ————— 第3700地区のロータリアンを地区大会にお招きして
- 10 ————— スパウス・新世代プログラム同行記
- 11 ————— 地区大会記念囲碁大会
地区大会記念ゴルフ大会2008を終えて
- 12 ————— 地区大会を振り返って
- 13 ————— 第1回 ローターアクト自転車リレー報告
- 14 ————— 私の“Rotary Notes”
東は東、西は西
- 16 ————— ガバナー補佐レポート
「小粒でもピリッと辛い」第1グループ紹介
- 17 ————— ガバナー公式訪問
- 20 ————— ローター財団寄付
米山記念奨学会寄付
文庫通信
- 21 ————— 新入会員のご紹介／訃報
- 22 ————— 出席率・会員数
- 23 ————— 地区カレンダー（12月・1月）
- 24 ————— 米国の金融危機の影響について
次回のGSEプログラムに想う
- 25 ————— 例会曜日・例会時間・例会場の変更等について



ガバナーメッセージ

折り返し地点にさしかかって

国際ロータリー第2510地区
ガバナー 矢橋 温郎
(札幌西RC)

12月2日、札幌西ロータリー・クラブ例会への出席で、ガバナー公式訪問が終了します。一緒に出席してくださった12名のガバナー補佐に、まずは御礼申し上げます。

最後の訪問先はホームクラブ、というのが慣例になっています。「訪問」というよりは、帰ってきました、ですね。「ただいま」。ゴールに飛び込む仲間が「おかえり」と出迎えてくれる情景をイメージします。箱根駅伝のような。そういえば箱根駅伝は来月ですね。でも、襷を渡す第二走者は、今年度にはいません。その意味では、これは駅伝ではなくてマラソン。73クラブという中継点を回っても、襷はかけたまま。私が渡す次の走者は、渡邊ガバナー・エレクトです。ではホームクラブへの公式訪問で何故、駅伝を思い浮かべたのか。やはり迎えてくれる仲間の顔が、ゴールテープの向こう側に見えるからでしょうか。箱根から大手町に帰ってくる復路でのゴール地点。苦楽を共にした陸上部の仲間が、順位に関係なく、泣いてアンカーを迎える。そんなシーンを毎年1月3日、テレビで見ているもので印象に残っているのかもしれませんが。

我がホームクラブの会員みなさんが、泣いて迎えてくれるなんて期待してませんが（笑）。きっと、淡々と、いつものように三越に行って、ちょっとした会員卓話かと思ふほど自然な例会になるのではと思われます。逆にそちらの方を期待します。そうあって欲しいのです。ホームクラブは堅苦しくないからこそ、ホームクラブ。地区大会の準備と運営において、ホームクラブのみなさんには大変お世話になりました。改めて御礼を申し上げますつもりです。泣いて迎える会員がいなくても、私が泣いて感謝の言葉を述べるかもしれません。そのためにも、ガバナー公式訪問はホームクラブを最後にとっておくのかも知れません。公式訪問で泣いたガバナーの話はこれまで聞いたことがありませんが、地区大会を終えて感極まったガバナーはたくさんいらっしゃいます。緊張の糸が切れ、それまでの苦労を思い出してしまうのでしょうか。地区大会が公式訪問のゴール地点であれば、尚更です。

中学生や高校生は、文化祭が終わるとよく泣きます。思春期特有の感受性かと思っていました。後期高齢者に同じ現象が起こるのは、思春期への若返りか、涙腺が緩みやすくなっただけか。地区内73クラブ、7月15日の江別西ロータリー・クラブを皮切りに、合同・ダブルヘッダーを含め61日間かかりました。大会終了時点でまだ20クラブ残っているほどのゆっくりとしたペース。その2ヶ月間にはIMや周年記念式典にお招きいただいたり、大会準備で夜遅くまで議論を交わしたり、他地区の大会に参加したり、東京で研修を受けたり等々毎日がロータリーです。これほどドブプリとロータリー漬けになるとは思いませんでした。

クラブ会長も大役です。任期の1年間はロータリー漬けだと覚悟したものです。今年度会長のみなさんも、その覚悟で臨まれたことでしょう。そして、ようやく折り返し地点が見えてきた、という達成感と疲労感を楽しんでいるのでは。私も、4年前に会長を務めたときはプレッシャーを感じたものでした。が、こうしてガバナーとしてロータリー漬けの毎日を過ごしていると、会長というのは週1回の集約された責務だということに気がきます。仕事上多忙だからとか、あまりひとをまとめるタイプではないから、といった理由で、せっかく会長に推されても断る方が最近増えたと聞きます。確かに責任感がなければ務まらない職務です。そのぶん、週1回、1時間の例会を、1年間仕切るだけで、1年後にはなんとなく成長した気分を味わえることも請合います。

米山梅吉翁は例会を「人生の道場」と称しました。1年間、道場主を務め上げるのもよい機会。最終例会の閉会点鐘をむせび泣きながら叩くほど道場で鍛錬された会長こそ、RIは表彰すべきだなどと勝手に考えます。

今年度の往路は、忙しいながらも楽しい半年でした。復路もみなさんと一緒にロータリーを楽しめますよう。



尊敬する日本のロータリーの指導者の皆さま

RI会長

李 東建

ヨーロッパからアジアへ向かう機上で、「ただ今、インド上空を飛行中です」との機長の案内放送を聞き、この手紙をしたためております。それというのも、数週間前、中国出張の際に、機内で事務総長が渡してくれた一枚の報告書を見たことを思い出したからです。そこには、会員数世界第2位を誇る日本のロータリーが、インドに追い越されたという内容が記されていました。

私は、衝撃的なその内容を信じるのができませんでした。ちょうどその時、私の乗っていた飛行機は富士山の上空を飛んでいました。私は誰よりも、日本のロータリーに関心を抱いております。日本のロータリアンの中には、ロータリー発祥地のアメリカに勝るとも劣らぬロータリー運営をしているとおっしゃる会員もおられました。

数年前、宮崎で開催されたRI第2730地区大会に会長代理として出席したことがあります。第2730地区は、私の亡父がRI第3660地区ガバナー（1985—86年度）在任中、姉妹地区でありました。当時、亡父と同期のガバナーがまだご存命で、臥病中にもかかわらず、亡父に対する懐かしさから、私と会っていただきました。

テーブルを前にして対座した老紳士は、次のようにおっしゃいました。「貴殿のお父上は私よりも2歳年上でしたが、寡黙な人でありました。当時の日本のロータリーは韓国とともに旭日昇天の勢いで活動をしていましたが、今は一寸、気持ちが緩んでしまったような感じがします。しかし、日本人は団結力があるから、すぐ立ち直るでしょう。日本人が「よーし！」と気合を入れ、肝に銘じたら、会員増強も世界第一の実績を挙げることができると思いますよ」

その後、私は老紳士にお目にかかる機会がありませんでしたが、「よーし」と言った彼の言葉に共感し、一致団結して立ち上がる日本人に魅了されております。私は当分の間、アメリカにおいて日本を凌駕するロータリー国はないと思っておりますが、しかし、亡父が称賛していた日本のロータリーが衰退の影を見せているのではないかと、不安が押し寄せてきています。

日本のロータリーは、会員数減少とともに、3.5ゾーンから3ゾーンへと縮小されました。インドのロータリアン数が日本を追い越したことで、日本のロータリーが弱体化するとは、もちろん、思っておりません。しかし、世界のロータリーの羨望的であった日本のロータリーが、後退してはなりません。世界の模範となるロータリー国である日本が弱体を見せると、世界のロータリーが後退する結果をもたらすからであります。

日本は2人のRI会長を輩出したロータリー指導国であり、日本のロータリアンは世界社会奉仕面でも先頭走者として活躍しておられます。日本ロータリーの会員増強においても、いろいろな方法がありますが、女性会員を積極的に迎え入れるのも一案であると思われます。韓国では、日本の数を超す女性会員が活動しており、女性ガバナーも3名輩出しております。

敬愛する日本のロータリー指導者の皆さま、いかに経済が難しく、民心が変わるとしても、日本人には「よーし」という精神力があります。皆でともに手に手をつないで前進してまいりましょう。2008—09年度に、会員増強の新しい金字塔を立ててゆこうではありませんか。

末筆ながら、皆さまの新鮮かつ格調高い対応策を期待いたしております。

第36回 ローターアクト地区協議会

ローターアクト地区協議会
実行委員長 畑井福太郎
(函館RAC)

平成20年10月11日(土)。函館市において、函館ローターアクトクラブをホストに、「2008~2009年度国際ロータリー第2510地区ローターアクト第36回地区協議会」が開催されました。ローターアクター20名、ロータリアン14名と参加人数は少ないものでしたが内容は充実したものでした。第11グループ担当地区ガバナ―補佐、地区新世代委員長にも参加頂き、ローターアクトの現状を知っていただけた事と思います。

今回は「ローターアクトを見直そう。確認しよう。」をテーマとして、年々厳しくなるローターアクトを取り巻く環境の中で、ローターアクトが今後も安定的、継続的に活動していくためにはどうすべきなのかを参加者で考えました。地区内8クラブの活動状況を発表し、各クラブの活動や工夫を参考に今後のクラブ運営、地区運営に活かし、ローターアクトの更なる発展を目的として充実した地区協議会になったと思います。

各クラブからは、「1.ローターアクトクラブの例会について(内容、会費、ロータリアンの参加など)」、「2.提唱ロータリークラブとの交流について(ロータリークラブ例会訪問、メーカーキャップなど)」、「3.ローターアクトクラブとして行っている活動について(どのような事業、活動の運営費など)」、「4.提唱クラブに望む事」の4項目を柱として発表していただきました。

メンバー減少、提唱クラブとの関係、クラブの抱える悩み、改善方法として工夫している事、ローターアクトの知名度をあげるための活動とこれからの活動やローターアクトのあるべき姿を考えるきっかけの一つとなったと思います。今回の地区協議会では、参考資料として「ローターアクトクラブ定款」「ローターアクト方針声明」などの資料も配布し、改めてローターアクトについての規則などについても新入会員だけでなく、ローターアクト会員、提唱ロータリークラブともに再確認の場ともなりました。

今年度も折返しが見えてきたこの時期に、今回のテーマで地区協議会が開催できた事は、次年度に向けて動き出すにあたり、有効なものではないかと思えます。残念ながら地区内ローターアクトクラブ半数が欠席という開催ではありましたが、参加したクラブの今後の活動にも何らかの刺激となったのではないのでしょうか。残念ながら欠席したローターアクターにも広く今回の地区協議会の内容、考え直すべき事を伝えていく事が重要となります。ローターアクトが今後発展していくためにも、参加した人だけのものではなく、会員1人1人の意識を高め、若い力が最大限に引き出される事を期待します。

地区協議会後に開かれた、懇親会ではローターアクト、ロータリアンが友好的に交流し、大いに語り、ローターアクトとロータリーの絆が深まった様に感じました。今後も「親子の関係」を良好な状態で継続し、互いの目標、目的に向かって協力していければと思います。





国際ロータリー第2510地区 2008~2009年度

地区



大会第1日 会長・幹事会



ロータリーソング斉唱



RI会長代理 ヴィセンテ J. カルロス



曾我隆一PG



記念囲碁大会



地区パストガバナー

大会

2008年10月25日^土・26日^日 ロイトン札幌



矢橋ガバナー点鐘



寺島実郎氏



三浦雄一郎氏



大会第2日 本会議



八木大会実行委員長



石谷ホストクラブ会長



吉田・浜松進行役



RI会長代理・ガバナーご夫妻



記念ゴルフ大会

地区大会回顧

伊藤 千秋

(札幌西RC)

国際ロータリー第2510地区の地区大会が2008年10月25日、26日の両日に亘り挙行され、無事に終了したことは誠に慶賀に堪えない。多くの関係者の方々に深甚なる謝意を表する次第であります。

ロータリーは言うまでもなく奉仕（Service）を第一義とする奉仕団体であります。このために世界を挙げて心ある人々が参集し奉仕を第一義とする団体でありましょう。考えて見ますと、私共はこの大義のため目的を達成する具体的、効果的手段として誠に実効のある方法を行って成果を期しています。

それが年一回開催される国際大会、地区大会加えて個々クラブの毎週例会であります。この実態は奉仕の大局の把握に始まり、方法、手段の検討へとステップ・ダウンし、結論、実施へと進むわけであります。

今回の私共の地区大会は上述の主旨では誠に良く整えられた大会であると自負したいのであります。

李東建国際ロータリー会長はそのメッセージの中で『私達の仕事はシンプルです。心と智恵と魂とを注ぎ、命を救うことです。私達の仕事は「夢をかたちに」することです。』と述べています。言や良し、本当に頭が下がります。

又、国際ロータリー会長代理、フィリピン第3810地区のヴィセンテ・カルロス氏はこう述べています。「アジア・第三世界には第2510地区の皆さんが貢献して戴ける緊急の用事がたくさんあるのです。」と呼びかけておられます。これ等は或いはロータリーの会合での恒例かも知れませんが、心して耳を傾けて聴きたいものと思います。

次に触れたい点は地区大会決議であります。「決議第1号」から「決議第10号」にかけての決定であります。これ等の内容を検討して見るに誠に重要なもののあるのを覚えます。単なる思い付きでは決して出来ぬ事項が存在します。慎重さを深く顧みる大切さを感じます。

以上申し述べました事の要は、矢橋地区ガバナーが申される『「夢」をかたちに』に帰着することと思えます。同ガバナーは、夢は未来、将来の単なる希望、憧れではなく現在を引っ張るものであると訴えます。私達は将来を夢みる中に現在の足下、現実に関心を寄せる大事さを忘れてはいけません。そこから総ては出発するのであります。

大会2日目に行われた記念講演、お二人の講師の講演に触れてみます。

・寺島実郎氏「これからの北海道が生き抜く道」

上掲の演題で氏の生涯に関わる具体的な体験を通じ該博な見識をご披露戴き、私共には殆ど不案内な政治、経済の現政府の行政に関与される一面のご紹介も戴きながら貴重な啓蒙を頂戴致しました。特に札幌出身者としての自負からでしょうが、札幌農学校長クラーク、内村鑑三、新渡戸稲造氏等に言及され本道人には今日もっと進取の気象の活性化が必要なのではないかとこの激励を頂戴致しました。

・三浦雄一郎氏「私の夢―世界最高齢でチョモランマに挑む」

上記の演題で齢七十歳を越えて登頂を取行された。健康に十二分に配慮された心身の誠に厳しいトレーニングの成果の結実を見事に果された体験談、又そこに至る尋常一様ならざるトレーニングの実体のご紹介等を戴いた。健全なる精神は健全なる肉体に宿る、の生命の覚醒への教示を戴いた。

今回の地区大会の参加者数は1,500名を優に越えたとのことであるが、この事がロータリアンのロータリーの原点への堅実なる回帰であるならば誠に喜ばしい事象である。

最後に今一度関係者の方々の労を多として心から感謝を表明し、明日からのロータリーの又の力強い歩みを期待したい。

地区大会を振り返って——記念講演事業

地区大会実行副委員長

記念講演担当 **石黒 直文**

(札幌西RC)

振り返ってみると、動きが始まったのは2年前の2006年の秋だ。当時、実行委員長であった私（2007年6月に会長エレクトの病氣辞退により急遽2007～8年度の会長に選出された私は八木昌興氏に実行委員長をお願いして副委員長となった）が、早急に決めなければならないと考えたことは次の3点だった。

- ① 大会のコンセプト（メインテーマ）
- ② 会場と日程
- ③ ゲストスピーカー（講演テーマと人選）

会場と日程は、2006年11月に、ロイトン札幌+厚生年金会館、2008年10月25～26日に決まった。このとき大会企画・総務担当として議論に加わっていただいたのは、矢橋ガバナーエレクトを始め、大金、八木、石丸、小野江、浅野、浜松の各氏である。

問題は大会のコンセプトだ。何のために地区大会を開くのが決まらなければ、ゲストスピーカーの人選も決まらない。率直に言って、いま北海道の現状はきわめて厳しい。将来に対するビジョンがなかなか持ち得ない。ロータリーの組織人員も一部を除いてギリ貧を続けている。数多くの議論の末、こういう厳しい状況だからこそ、今度の地区大会は、われわれ北海道のロータリアンに対して、将来への夢と希望を示すことのできる地区大会にしたいとみんなが思った。やがて2008～9年度のRI李東建会長の「Make Dreams Real 夢をかたちに」が示された。ガバナーの賛同を得て、われわれが示した地区大会テーマは「北海道 その夢」だった。テーマが決まれば、次は、それに相応しいスピーチであり、スピーカーだ。テーマに沿って、北海道の未来に対する確かな方向を指し示す識者は、誰だ。実行委員会の総務企画担当の委員は、その候補者を5名に絞って論議を重ねた結果、三井物産戦略研究所および日本総合研究所を主宰する寺島実郎氏にお願いしてみようということになった。

北海道の沼田町生まれで、札幌の幌西小学校、手稲中学校、旭ヶ丘高校の卒業生。北海道を愛し、世界的な観点からも歴史的な観点からも、われわれの期待に十分に答えていただけの人。それは寺島さんだ。早速、2006年7月に文書で、われわれの意図するところを伝えて講演依頼するとともに、9月21日に三井物産戦略研究所を訪問し依頼した。正式に承諾する旨の回答があったのは、2007年3月であった。

一方、もうひとりのゲストスピーカー、三浦雄一郎氏が決まったのも、2007年3月である。当初、われわれはメインスピーチのあと数人のディスカッションによるフォーラムを考えていた。しかし、実際の組み立てになると議論が百出してなかなか決まらない。そのとき、「三浦雄一郎さんに頼んだらどうだ」と言い出す人がいた。なるほど、三浦さんは75歳になって、この夏、世界最高齢で、世界最高峰のチョモランマにチャレンジしようとしている。われわれ北海道のロータリアンにとってこれほど勇気を与えてくれる人はいない。また、これほど北海道を愛している人もいない。早速、三浦さんと親しい戸部謙一会員が内意を伺った。3月10日正式に承諾の返事を頂戴し、これで記念講演のビッグ・ツーが決定したのだった。

10月17日、上京、両者訪問。スケジュールの細目を打ち合わせ、当日の当方の出迎え等対応担当者も、寺島担当 大金弘武さん、三浦担当 浅野、小野江両会員にお願いすることとした。当日、舞台上がって感動した。参加者のほとんどが席を立たずに講演を聴こうとしている。率直に言って、従来の地区大会は午前中の行事が終われば、会場はがらがらになってしまう。だが、今回はほとんどの人が席を立たずに、真剣に耳を傾けようとしているのではないか。

寺島さんは、2008年が、まず、時代の潮目が大きく変わる年だと時間軸上の位置付けを明確に示した。北京オリンピックの成功、環境問題に焦点を当てた洞爺湖サミット、さらに百年に一度の経済危機は、間違いなく世界が変わりつつあることを示すものだ。また、アメリカの時代の終わりとはアジアの興隆という地球儀における日本と北海道の座標とベクトルを的確に指し示してくれた。三浦雄一郎さんは、まず、チョモランマ登頂のなまなましいビデオでわれわれの度肝を抜いた。75歳という高齢で過酷な登頂に成功するには、実はなみなみならぬ努力で困難を克服したに違いない。しかし、三浦さんはユーモアに満ちた語り口で、平凡な訓練を倦まず続けることの大切さを淡々と話してくれた。

お二人が、北海道のロータリアンのために残した言葉。寺島さん「他人に依存して成功した国も地域もない。北海道が生きぬく道は、自分で切り開く気概を持つことだ」三浦さん「人は夢に挑戦することだ。決して諦めてはいけない」

ヴィセンテ J. カルロスRI会長代理ご夫妻をお迎えして

戸部 謙一 (札幌西RC)

戸部アナマリア (札幌はまなすRC)

当地区大会のRI会長代理として、フィリピンRI第3810地区のヴィセンテ J. カルロスPDG (以下ヴィンス) と令夫人のクリスティーナ (以下ティーナ) がご来道されるとの事で、私が彼と面識があり、また在札幌フィリピン共和国名誉領事でもあることから矢橋ガバナーの依頼を受け、妻アナマリアとエイドを務めることになりました。

私達にとってエイド役は今回で3度目になります。最初は1984~85年度のメキシコ出身のカルロス・カンセコRI会長ご夫妻が札幌にいらっしゃった時です。当時の第250地区ガバナーは道下俊一先生、第251地区ガバナーは札幌西RCの河邨文一郎先生で、両地区合同でRI会長ご夫妻を迎えることになり、アナマリアがメキシコ出身であることもあり私達にエイドを頼まれ、緊張と楽しさを感じながらその責を果しました。又、当年度地区大会のRI会長代理はフィリピンのサビノ・サントス元RI理事で今は亡き札幌西RCの石井会員がエイドをされました。

次は1990~91年度地区大会のRI会長代理が札幌西RCの姉妹クラブであるヴィンスと同地区のマカティ・ウエストRCの親友のオスカー C. デ・ベネシアPDGの時で、当年度の白石欽一ガバナーや石田幹事にエイドを頼まれ引受けました。令夫人のブーツとアナマリアは大の仲良しでしたし、又、私達はオスカーがガバナーの時、3日間にわたる地区大会にも出席した仲でしたので滞在中は気楽で楽しい日々を彼等と過した事を思い出しています。

そして今年度はヴィンスです。当地区へフィリピンからのRI会長代理として来られたのは3人目となると思っています。ロータリーから生まれた友情を大切に、そして感謝しつつ。

次からはアナマリアの記述です。

私アナマリアはロータリアンになってはじめてのエイドです。10月23日に矢橋ガバナーご夫妻と私達は新千歳空港でヴィンスご夫妻を迎え、夕食はガバナーの招待で和食を楽しみました。24日は雨と寒さで大変でしたが、ヴィンスご夫妻と我々4人は札幌市内観光後に小樽市のガラス工芸品やオルゴール館等を見て廻りました。両日の移動中や食事の時に色々な話題が出てとても楽しい一刻が持てた事は良き思い出となっています。

ヴィンスは以前に観光大臣を務めた事もあり、現職の弁護士以外に十数社の社長や役員の任にあり、又コートジボアールの名誉領事も務めている大変多忙な方ですが、同時にロータリーを熟知し、心より愛して活動している事もあり、RI会長代理として日本やアジア諸国の地区大会に何度も出向かれているとの事でした。ティーナもマニラRCのインナーホイールの会長も務めたロータリーを良く理解している方で多くの時間を夫と共にロータリーの為に使っている素晴らしいスパウスのようです。又この度の当地区大会出席にあたりマカティ・ウエストRCの会員や数回来札している義兄のジュン・タンブンティンPDGから当地の情報を得て訪問を楽しみにしていたとの事でした。

彼等が新婚旅行に選んだのは日本、滞在中の食事は殆ど和食とのことで日本が大好きなご夫妻でした。又令夫人は、大学時代にフィギュアスケートでフィリピン・チャンピオンになったとの事で次回にお会いする時は私の夫と一緒に滑ろうと約束していました。

大会第1日の歓迎晩餐会では伊藤義郎元RI理事の素晴らしい英語でのスピーチに感動しており、その後同じテーブルの竹山涼一元RI理事ご夫妻、矢橋ガバナーご夫妻との歓談を楽しんでおられました。最後の「手に手つないで」は輪の中に入り温かい友情を感じたと喜んでいました。

第2日ではヴィンスは壇上に残り、ティーナ、矢橋ガバナー夫人と私の3人は遅れてスパウス・プログラムに参加しました。北海道大学の銀杏並木は素晴らしく美しく、その並木を昔の服装でパレードした学生達を見て日本の大学生についての見方も変わったと愉しげに写真を撮っていました。再び会場に戻り、ヴィンスご夫妻は札幌南RCのクリステンセン会員の通訳で三浦雄一郎さんの講演を楽しんでおりました。当日、三浦さんが出版した本にサインをしてもらい記念として彼等にプレゼントしました。

地区大会も無事終了し懇親会の後、札幌西RCの慰労会にも出席して総てが終わりホッとしました。大会中そして27日、千歳空港までの車中でヴィンセご夫妻は大会に参加した多くのロータリアン、若き留学生やインターアクター、ローターアクター達が真面目に又一生懸命会議に参加している姿や地区委員会のブース等での活動内容の報告や計画のPR等を見て感動した事、慰労会で「おつかれさま会」の意味を知り、ホストクラブのメンバー全員が大会の運営に協力した姿を見て嬉しく、その晩はティーナと夜遅くまでこの事を語り合ったとの事でした。又この大会で多くの素晴らしい方々との出逢いがあり記憶に残る楽しく意義ある大会であったと話されておりました。RI第2510地区の皆様がマニラに来られる時には是非声を掛けて下さいとの事でした。

最後になりましたが、大会期間中及びその前後にエイドにご協力、ご支援を戴きました地区大会実行委員会の皆様にご心より御礼を申し上げます。

第3700地区のロータリアンを地区大会にお招きして

地区国際奉仕委員会

委員（国際友好担当） **森谷 明弘**
(札幌西RC)

地区大会の開催初日、朱（Joo）ガバナーを団長とする韓国第3700地区のロータリアン26名を千歳空港で通訳の李さんと共にお迎えしました。今回、訪日のロータリアンは自宅を午前4時に起床、6時に大邱（テグ）の空港に集合し、仁川（インチョン）空港で飛行機を乗り継いで千歳空港に12時20分に到着しました。予定の到着時刻よりもず～っと早い千歳空港への着陸だったので我々を一瞬慌てさせました。

この第3700地区との姉妹提携は2004年10月に遠藤秀雄パストガバナーにより締結され、爾来、矢橋ガバナーが地区の国際友好委員長として就任してからは、地区大会の開催毎に相互訪問をくり返し、地区同士のロータリアンの友好と親善を深めてきました。今後は、次のステップとして両地区の共同事業の企画が懸案となっております。

今回、地区大会への参加をいただいた第3700地区のロータリアンは、直前になって為替が超円高・ウォン安にふれた為に、ツアー料金が割増しになったと伺いました。

当日夜のRI会長代理歓迎晩餐会のあとは、市内のカラオケ店に案内しました。早朝からの移動にも関わらず、カラオケ店での第3700地区のロータリアンのパワーには圧倒されました。これが韓国のキムチパワー全開ともいえる様子、次から次へとくり出される歌の数々に、一同満足をいただけた事と思い、案内人としてホッとしたいです。

翌日の大会当日は、ランチに日本食の弁当を食べて頂きましたが、特別に用意した白菜キムチ・オイキムチ・カクテキ三点盛りは大好評で、残さず召し上がられました。一行は毎日、習慣のように食べているキムチにホッとしている様子でした。翌日以降は、小樽・洞爺・登別を観光し、北海道の温泉と若干遅めの秋を堪能して28日（火）に矢橋ガバナーの登美子夫人も千歳空港に見送りにかけつけて頂き、来年春の大邱（テグ）での地区大会の再会を約束して、釜山経由で帰国しました。

次年度の第3700地区の大会は、今回、朱（Joo）ガバナーと共に訪日された若くてエネルギッシュな宋（Song）ガバナーエレクトの下に2009年5月1日、2日に繊維の街・ファッションの街、大邱市（テグ）で開催されます。数多くのロータリアンの参加を願っております。

《第3700地区の概要》

第3700地区の中心都市大邱市（テグ）は人口250万人。世界のポリエステル生産の40%を占める、ソウルから300kmにある繊維都市。

- 93クラブ・会員総数3,373名
- 女性のみクラブ17クラブ・女性会員数468名（2008年4月現在）

スパウス・新世代プログラム同行記

地区幹事 上出 利光
(札幌西RC)

地区大会前日のゴルフ大会は生憎悪天候に遭遇したとの情報が入った。ゴルフ担当村上委員長始めとした関係ロータリアン各位の意気消沈振りが目に浮かぶ。しかし、企画、景品等の準備に大変な手間暇をかけていたのを多くの関係者が見ており、そのご苦労には敬意と感謝です。

地区大会2日目も雨、しかも晩秋の気温との天気予報であった。このプログラムの目玉は、紅葉に染まった北大構内の散策と一般には馴染みが少ない博物館訪問である。地区大会副委員長の石黒さん、ホストクラブ実行委員会総務の小野江さん、宮松スパウスプログラム委員長は、北大等との事前の打ち合わせに十二分に配慮されていたが、如何せん御天道様だけはどうしようもない。早朝ロイトンに向かう車の中でも空だけが気になっていた。

地区大会の議事が進行し、10時前に司会のアナウンスを受け、スパウスプログラム参加者約40名は会場を後にして観光バスに乗り込んだ。宮松委員長は老舗料亭の社長であるが、新米社会人の時の研修で経験した観光ガイド?の実力を遺憾なく発揮し、見事なバスガイドぶり、会場からあつと言う間に北大に到着した。しめた、まだ雨は落ちてこない。正門脇に停車し、構内を博物館に向かった。途中北大第一の観光スポットであるクラーク博士像の前で先ずは、全員で記念撮影。写真撮影はこの道のプロである札幌西クラブの古参ロータリアンの川田氏。ガバナー月信に掲載されるスパウスプログラムの写真の構成、ピントを御覧あれ。

国際ロータリー会長代理ティナ夫人とエイドの札幌はまなすRC戸部アナマリアさんは、遅れて博物館で合流した。博物館では、玄関前で博物館職員、ボランティアの丁寧な出迎えを受け、昭和から使用している講義室で先ずは、オリエンテーションを受けた。矢橋ガバナー夫人を筆頭に妙齢のご婦人達、米山奨学生、インターアクト等と一緒に。久しぶりの古めかしい椅子、机の環境に小生ならずとも昔を思い出し、試験問題が配られるのか?と一瞬錯覚してしまった。

恐竜の骨格標本等の見学に十分な時間を割り、最後はチェンバロの演奏会を楽しんだ。チェンバロはピアノの原型ともいわれている。4年前の大型台風で倒れた北大構内のポプラ材を使用し、北大ポプラの生まれ変わりとしてのチェンバロである。ピアノと異なりその音色は極めて繊細であり、極狭い空間でしか音が届かず、また調律に時間を要する等の事情からこの音色を耳にした方はまれであろう。3曲楽しんだが、最前列に陣取っていたティナ夫人、アナマリアさんからの不意をつく「アンコール」というリクエストに演奏者は、喜んで応えてくれた。

外に出ると一瞬パラパラと来たが、あまり気にならず、この後、13条門に向かって紅葉真っ盛りの銀杏並木で記念撮影し、一路海陽亭に向かった。趣のある広間で料亭の昼食を頂いた。食べ盛りの学生は大盛、お変わりのサービスを受け、これを完食。小生のテーブルでは、札幌西クラブ橋本委員、韓国、中国、台湾、カンボジア等の米山奨学生との楽しい食事の時間であった。

スパウスプログラムを楽しんでいただけたらうか?至らぬところは、ロータリーの寛容の精神でお許しあれ。



地区大会記念 囲碁大会

戸部 謙一 (札幌西RC)

今年度のR1第2510地区、地区大会記念囲碁大会は10月13日に日本棋院北海道本部囲碁会館で開催されました。当日は10グループから25名の参加があり、4段以上の12名がAクラス、3段以下の13名がBクラスに分かれ和気藹々の中で囲碁を楽しみました。

大会はホストクラブの札幌西RCの石谷会長の挨拶で始まり、5時間半の間に各人が4名の方と対局して優勝を争いました。終了後に隣のKKRホテル札幌に移動し、矢橋ガバナー出席のもと懇親会が行われ、その時にA、Bクラスの優勝者及び準優勝者にガバナーよりそれぞれの楯が贈られました。ここに各クラスの5位迄の成績を発表させて戴きます。

	Aクラス		Bクラス	
優 勝	中村 孝一	4段 (札幌真駒内RC)	南部 昭憲	3段 (札幌真駒内RC)
準優勝	五十嵐達明	4段 (滝川RC)	内田 豊	2段 (札幌幌南RC)
3 位	山口 俊秀	4段 (静内RC)	加藤 嗣郎	2段 (伊達RC)
4 位	戸井 敏夫	6段 (札幌幌南RC)	戸部 謙一	初段 (札幌西RC)
5 位	伊藤 長英	6段 (苫小牧北RC)	彫谷 吉英	3段 (余市RC)

今年度のA及びBクラスの優勝者は共に札幌真駒内RCの方になっており、地区大会終了後の懇親会では当記念囲碁大会の優勝者として紹介させて戴いております。

この記念囲碁大会の開催にあたりましては、例年の如く伊藤長英PDG、札幌幌南RCの熊谷泰隆7段と高島英寿6段の方々に多大なるご協力、ご支援を戴き無事に大会を終えることができました。又当日は岡崎康午囲碁大会副委員長、川田弘記録委員長の長時間にわたるご協力を戴きました。本当にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

最後になりましたが、次年度ガバナーのホームクラブ、滝川RC次年度会長の川口義弘氏もお出でになり熱心に見学されておりました。次年度の地区大会記念囲碁大会も盛会であることを祈りつつ、又皆様のご協力に感謝しつつ。

地区大会記念 ゴルフ大会2008を終えて

村上 登 (札幌西RC)

「ゴルフは全天候のゲームだ。中止になるのは雪と落雷のときだけ」作者不詳

2008～2009年度の地区大会がわが札幌西ロータリークラブは矢橋ガバナーの御指導の元各実行委員長中心で会員総力実行されました。

私は24日ゴルフの委員長を命じられメンバーの協力を得て会を盛り上げ、楽しい思い出多い大会であるように準備しました。登録者79名当日のプレイヤー56名キャンセル23名でした。当日はこの日1日だけ大風、大雨に見舞われ、全て私の普段の奉仕活動が悪いと参加の皆さんにいびられまして、平身低頭の連続でした。心ある人には思い出に残る一日になるねーといわれずがる思いでした。

盛りたくさんの賞品を皆さんに公平に配ることが出来て本当にホットしました。参加して頂いたクラブの皆さんは、伊達RC5名、登別RC1名、岩内RC1名、蘭越RC1名、栗山RC2名、岩見沢RC1名、札幌RC4名、北広島RC1名、札幌幌南RC1名、札幌東RC4名、札幌真駒内RC1名、札幌手稲RC4名、札幌西北RC7名、札幌南RC2名、新札幌RC2名、札幌西RC19名、合計56名で大雨でのキャンセルは当日11名でした。賞品が皆さんに多くいきわたる様にと、還暦を境にシニアの部と、一般の部に分けて表彰しました。

見事優勝の荣誉に輝いたのは一般の部、伊達RCの安宅修治さん、シニアの部、伊達RCの小野寺隆之さんベストグロス、シニア二部岩見沢RCの金子賢一さん、一般の部札幌幌南RCの舛田雅彦さんの皆さんでした。おめでとうございます。優勝者には矢橋ガバナーから三越仕立てのグリーンジャケットと今年度チャンピオンと記名入りのエンブレムが贈られました。悪天候と共に良い思い出であって欲しいと願っています。不手際はロータリーの友情でお許しください。参加の皆さん有難うございました。

地区大会を振り返って

地区大会実行委員会 副幹事 石丸修太郎
(札幌西RC)

初めての経験となった、個人としての地区大会の思い出を述べてみたいと思います。矢橋ガバナーの誕生が決った2年前、札幌真駒内クラブが地区大会のホストを務めていた頃は、札幌西クラブがいずれ地区大会のホストを行うということは判っていましたが、まったく実感としては無いものでした。

その後、酒井ガバナー年度に、ひよんなことから地区のIC委員とGSE委員を掛け持ちすることになり、地区の委員会の仕事を垣間見ることができましたのは、結果的にブースの設置などで大変良い経験となりました。また同時期に、矢橋ガバナー年度の地区幹事にノミネートされ、昨年からの準備のための作業が進められ、PETSや地区協議会など様々なところで他のクラブの方々と知りあえたのも、この地区大会の運営には大いに役に立つものとなりました。地区大会に関しては、札幌西クラブの中で昨年の夏に実行委員会が立ち上がり、その中で副幹事として、会計・総務・企画、登録・受付、広報・記録を受け持つこととなりましたが、その後、宿泊・輸送も担当となりました。

物事進めるにあたり、何せ先立つものがどのようになるのかが、まず必要な世の中でありました。これまでの地区大会の決算書を集め分析し、予算作りが私の最初の仕事となりました。登録人数の読み、記念事業への参加人数の読みが鍵でしたが、前年度の函館における地区大会の人数をまずは基礎として予算組みを行いました。その上で、会場となるホテルや会館との事前打ち合わせを行い、会場費や懇親会費などのおおよその費用の見積りを得た後、その他の経費の配分を行うと、まあこじんまりとした地区大会が可能であるとようやく判断でき、実行委員会に報告いたしました。これを基に、実行委員会で記念講演会の企画が検討され、寺島実朗氏に講師をお願いすることとなったのですが、その後、ひよんなことから、三浦雄一郎氏もお呼びしてダブルキャストの講演会が決定してしまいました。当然なのですが、予算を預かる身としてはビックリ仰天、かくなる上は、見込み登録人数の引き上げるしかなく、8月の登録開始より、実行委員長および副実行委員長の方々に各クラブ訪問を要請し、メンバーさんの登録をお願いして回っていただき、その上、ガバナー補佐の皆さんにもグループ内のクラブへの登録協力を要請させていただいた次第であります。その結果、9月半ばになりようやく予算的に目途の立つ登録人数となり、まずはほっといたしました。



また、通常は8月のお盆過ぎには連絡が来るという、RI会長代理の連絡が9月の初旬まで無く、フィリピンからヴィセンテ・カルロス氏の来訪が知らされたのは9月5日でした。連絡があったその日にすぐさま、メールを出して、プログラムへ掲載する挨拶文と写真を要請いたしました。これまでにRI会長代理を幾度も務めている経験からかすぐに対応していただいたのは大変助かりました。その後も、すべてメールでのやりとりで会長・幹事会におけるスピーチや本会議におけるRI現況報告のスピーチを事前に入手することが出来、札幌西クラブの会員が手分けして翻訳を行い、翻訳文を印刷し手配たり、プロジェクターで流すことが出来ました。海外からお客様が来られる場合のメールの便利さをしみじみ感じた次第です。本会議での最後の所感の通訳をさせていただきましたが、昼食時におおよその原稿を持っていたのを見つけて、コピーをいただけたのも大変に助かりました。

1,600余名ものロータリーアンを集めるという一大イベントで、縁の下の仕事を多くさせていただきましたが、台本も無く誠に勝手な指示をどんどん出したにもかかわらず、嫌な顔一つ見せず一緒に作業を行っていただいた札幌西クラブのメンバー全員に心より感謝の言葉を捧げさせて頂きたいと思います。

第1回 ローターアクト自転車リレー報告

地区ローターアクト委員会
委員 蝦名 大典
(札幌幌南RC)

この3～4年の間に我が地区のローターアクトの数は、著しく減少し続けている中で受け皿となるローターアクトクラブ自体までが、減少し始めました。

このことで「今までと同じ活動をしていてもローターアクトクラブの発展は厳しいのではないか」「何かに役立ち、達成感を得られる活動はないか」と話し合い、今回の函館～赤平自転車駅伝を企画しました。参加者全員で襷をバトンに交通安全を訴えた旗を掲げて パーキングエリア等では、事前にアクト会員で作った交通安全の川柳付ティッシュを配布するなどして交通安全を訴えました。



10月12日 AM7時 函館駅にてロータリアンを始め仲間たちに見送られスタートした自転車は、途中で何のトラブルも無くPM4時30分に宿泊地 洞爺湖に到着。その日は早めの夕食をとり 次の日に備えて十分に休息をとりました。



10月13日 AM7時 洞爺湖を出

発しPM4時30分に赤平駅到着。初めての企画にもかかわらず総勢16名で合計375kmを2日間で完走した時、参加者全員が「キツイ」とか「疲れた」ではなく「次はどこからどこへのリレーをしようか」などと話し、仲間と一つの目標に向かって行動をすることの素晴らしさや達成感をかみ締めてのゴールになりました。現実問題としてアクトクラブやアクトの数は減少しています。しかし人間関係が希薄になりつつある現代社会の中で青少年が心一つにして目標に向かい達成感を得ることができ、有意義な時間を共有できるローターアクトプログラムは無くしてはいけないどころか今だからこそ盛り上げていかなければいけないプログラムの一つではないでしょうか。

私自身もローターアクトクラブを経てロータリークラブに入会をさせていただきました。その時の仲間と今でも交流を続けております。これからの青少年たちにも「生涯の仲間作りの場」「有意義な時間を共有できる場」としてのローターアクトクラブを存続しかけがえのない仲間として共に成長していけることを望んでおります。

最後になりましたが、スタートの見送りや差し入れを頂きましたロータリアンならびにローターアクトメンバーにこの場を借りてお礼を申し上げます。「応援ありがとう御座いました。」



平成20年10月16日函館新聞



東は東、西は西

国際ロータリー第2510地区

PG 塚原 房樹

(札幌東RC)

《オオカミの群れ》

今この原稿を書いているのは、“いちょう”の葉が金色に輝く10月も末の「小春日和」の午後です。「小春日和」は英語でインディアンサマー／Indian summerと言うそうです。晩秋から初冬にかけて続く暖かい日のことです。また秋の収穫を終え長い冬の準備のため、雪が積もる前のこの季節、「人生の晩年などの落ち着いた幸福な一時期」もインディアンサマー／Indian summerと表現します。私ごとですが、今年は腰痛で車いすのお世話になり、その後肺炎に罹りましたが、ようやく健康になり晩秋の小春日和を穏やかに過ごしています。

さて会長幹事の皆さんは就任前にクラブの管理運営についてPETS、地区協議会で研修を受けられました。その研修はRI会長のテーマをはじめRIの重点課題など、どちらかという自分たちの単年度に限られたものでした。もともとロータリーのロータリーたる最大の特徴は一年一年ローテーションすることです。RI会長もガバナーもクラブ会長さんも任期は一年です。しかしロータリーはローテーションしながら創立以来100年間前進を続けてきました。その秘密（絶対要件）はリーダーシップとチームワークでした。ノーベル賞作家、ラディヤード・キプリングのジャングルブックという小説の中に“狼は群れの力であり、群れは狼の力である”という言葉があります。狼は一頭でも強い動物です。その狼が群れを作るとさらに大きな力を発揮します。同じようにロータリアンは地域社会の中の一騎当千の職業人です。そのような人々の尽きることのないチームワークこそロータリーが継続発展するための力の源でした。しかしそれよりさらに基本的なことは、狼の群れにはどの群れにもリーダーがいるということです。ロータリーの歴史を見ればロータリアンは常にリーダーを用意して、これに従い、リーダーを支援しています。近年RIの提唱するDLP、CLPは、まさにリーダーシップとチームワークの強化を目的としたものです。このキプリングのジャングルブックの最初に“東と西のバラード”と言う一節があり「ああ東は東、西は西、この二つが交わることはない」という有名な言葉があります。東と西の相互理解の難しさを表す言葉としてよく引用されます。

しかしこのバラードの最後に「しかし東西の二人の勇者が相向かう時には、東も西もなく、国境や民族や生まれの別もない」と繰り返されています。決して東西の人間が理解しえないことを強調しているのではありませんが、作者の意図が間違っ

《東洋と西洋の奉仕観》

ロータリーは日本にとって外来思想です。ロータリーの背景にある思想は隣人愛・愛（アガペー）を説く中世キリスト教神学です。ロータリーの綱領（目的）は万国共通の理念ですが、キリスト教と仏教では根底にある奉仕観に違いがあります。キリスト教も仏教も他の人々への愛を強調します。なぜ隣人を愛さなければならないのでしょうか。キリスト教は根源的なものとして神を立てます。その上でさらに神は愛を以って人間を作られたので、自分と同じく神の愛によって作られた隣人た

ちを愛してゆかねばならないということを強調します。

仏教はこれに対して、「無我」こそ存在の根本であると考えます。ところで無我といえ一見、全く自己は存在しないというように虚無的に理解されがちです。しかし決してそうではありません。

無我を肯定的な言葉で言いかえれば「自他不二」ということが言えます。自己がないということは、自分と他人とは二つではない、すなわち同じであるということです。このように自己と他人とは存在的に見ても全く同一であるという認識、すなわち自分も隣人も、生きとし生けるものすべて同じものであるという認識に基づいて一切のものを愛せよと唱えるのが仏教です。

キリスト教の根底にあるものは「禁断の木の実」を食べたアダムとイブの原罪説です。ピューリタニズムでは墮落した人間はどんなに修養を重ねても許されません。彼らにとってこの世は涙の谷であり、やがて終わるべき旅路に過ぎません。しかも彼らは神の栄光を増すためにこの世を少しでも神の国に近づけようと努力し、それが神に許される証となるのです。こうしてこの短い人生の旅路はやがて終わるのだから我々は昼のうちに仕事をしておかねばならないという緊迫した気持ちを生みます。この世の楽しみを捨てて、すべてを隣人愛の実践にささげねばならないという巨大なエネルギーがほとばしり出ることになりました。そして経済活動を、神の栄光をたたえ隣人愛を実践する手段と考えました。これが職業奉仕の原点なのです。ロータリーの奉仕観にも、背景には「罪をつまびらかにし、また許す神」との緊張感があります。アメリカでは、杖をついたお年寄りが交差点を横断しようとしているのを見かけると、たちまちばらばらと数人の人が駆け寄り手を貸します。神様は健常者の心を試すためにハンディキャップを持つ人をおつくりになったのです。

一方日本の社会は東洋哲学（儒教・仏教・神道）が人々の生活を律してきました。特に儒教ではこの世と人間との関係は徹底した楽観主義に立っています。つまり儒教の考え方によると、この世は様々な世界のあり方の中で最上のもの、そしてキリスト教と全く逆に、人間の本性は善であり、修養すれば仏にもなれます。儒教の目指す人間の理想像は君子という表現で示されます。君子は徳が高いといわれていますが、それは道に従うことであり、この道とは一定の理法に従う世界秩序のことです。つまり人倫の道に従うことがこの世で目指す理想となります。儒教ではそうした外面的な作法、世間体を出るだけ守り、そのために自分を抑制します。財団への寄付金も会長さんが1,000円出すなら、皆も右へ習えで1,000円ずつ出します。日本には奉仕の動機に「贖罪」といった意識はありません。信ずる宗教の違いにより奉仕観に決定的な差が生じます。儒教での罪は秩序と調和を破ることであり、それは償いうる過ちであって、キリスト教の原罪といったものとはあまりにも遠くかけ離れています。またアメリカと奉仕観が大きく違うのは日本にはパブリックという横の概念がなかったことです。日本社会は身分的な縦の人間関係で成立していました。

かつて日本の道德規範であった儒教の四書の一つ「大学」の「修身・齐家・治国・平天下」がよく知られていますが、この縦系列の道德律に欠落しているのは、欧米における自立した個人によって形成される「社会」（パブリック）という認識です。「齐家と治国」の間に「社会」が入るべきです。日本の縦の人間関係では人間の相互関係が働くボランティアの生まれる余地はなかったのです。日本人の控えめな態度を美德とする生き方にとって、ボランティアはそれを超える精神的エネルギーを必要とするものでした。外来思想のロータリーが我々にもたらした一番大きな功績は、ボランティアというと単に「困った人を助けてあげる」ことだと思っていたが、むしろ「助けられているのは自分」の方だという新しい価値観を積極的に我々に与えてくれたことです。



「小粒でもピリッと辛い」 第1グループ紹介

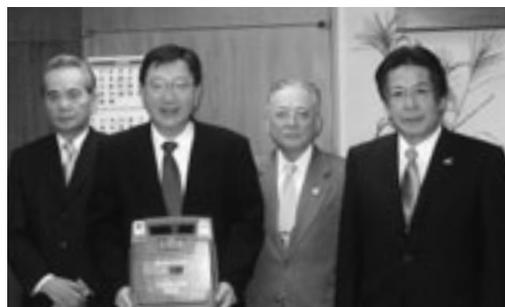
地区ガバナー補佐（第1グループ担当）

大西 道祥

（深川IRC）

第1グループは第2510地区の最北端で5クラブあります。それぞれのクラブ会員数は50人に満たず、経済不況を直に受けているようですが、各クラブは地域に根ざした特徴あるクラブ運営で「小粒でもピリッと辛い」活動しております。

深川IRCは今年度創立50周年を迎えます。2009年5月17日（日）に式典を予定していますが、去る10月1日深川市役所を訪れ、市長室において伊藤 崇50周年記念事業委員長より、記念事業としてAED（除細動器）を深川市に5台（市役所庁舎、健康保険センター、道の駅深川、深川小学校、一己小学校）をそれぞれの施設に設置される予定で贈呈式が行われました。「いのち」の救命機器として50周年に大きな奉仕の機会を戴きました。



羽幌RCは羽幌町（人口8,453人）と初山別村（人口1,458人）の2町村を活動区域として奉仕活動の展開しております。会員数は女性1名を含む48名で羽幌町在住44名、初山別村在住4名の構成であり、活動地域の人口206人に1人が当クラブの会員であり、決して少なくはない会員数と思われれます。親睦委員会を中心に家族を含めた活動を展開し、楽しいロータリー活動に重点を置き、毎年3回の献血推進協力、交通安全のための街頭啓発の参加、青少年育成活動の一環として羽幌ロータリー杯少年野球大会の実施、特に2005年から羽幌町自然空間（ピオ・トブ）作りに参加協力し、一部のスペースを「ロータリーの森」と命名され、色々な種類の木を454本の植樹を終え、今年度は植樹した周りの草刈を実施したところです。また例会の開催については夜間例会を月2回設けて、会員相互のコミュニケーション、親睦の和を広めて「ロータリーが楽しい」をテーマで活動推進しております。

妹背牛RCは会員数9名の少数ながら、大変チームワークが良く、地域密着型の活動を真剣に模索し実行しています。今年度も新入学児童への黄傘贈呈、「ジュニア・カーリング大会」の実施で「カーリングの町妹背牛」の町興しに一役買っています。

小平RCは昭和49年設立以来、少人数の小さなクラブではありますが、会員相互の「和」をモットーとして、先輩ロータリアンの築き上げてきた小平RCの灯を末永く受け継いでいけるように努めており、特に家族交流の親睦活動を実施するなど、融和を重視した活動を行っています。

留萌RCは他のクラブではあまり見受けられない例会時発表があります。「3分間情報」です。

過去は情報委員会が、現在は会員研修委員会が約50年間、毎例会ごとにそのタスクをリレーしてきました。ロータリー活動全般にその内容をクラブ会員に語りかけるのです。毎週のクラブ会報にも掲載されるので聞いて読んで、じっくりと身体に染みつけることができるのです。最近の3分間情報の中からお気に入りをおひとつ。ロータリーは着物の裏を整えて着心地を良くするような仕事をしている。身体に密着するのは表ではなく、着物の裏である。ロータリーも生活に密着して住み良い世の中を作ろうとしている。



以上が5クラブの紹介です。各クラブの会長、幹事さんの意向に沿うように原稿を書きましたが、お気に障りましたら「ロータリーの友情」に免じてお許し下さい。

ガバナー公式訪問

静内ロータリークラブ

9月10日（水）

9月10日、当クラブに矢橋ガバナーと第8グループ園ガバナー補佐を迎えてガバナー公式訪問が行われました。午前10時からの会長・幹事会では、矢橋ガバナーより率直なご意見を戴き、なごやかなムードのなか会議を終えることができました。クラブ協議会では、当クラブの活動計画を四大奉仕委員会から説明の後、矢橋ガバナーより質問や講評を戴くと共にRI広報補助金や財団補助金の活用方法について助言を戴きました。

その後の例会の卓話では、RI会長とテーマ「夢をかたちに」の紹介、ロータリー財団の補助金、ポリオ撲滅についての協力がありました。また、アフガニスタンからの米山奨学生やその他の奨学生の現状について説明され、静内ロータリークラブの活動に生かすための貴重なお話を数多く戴きました。

例会終了後、静内インターアクトクラブを訪問されました。



えりもロータリークラブ

9月11日（木）

9月に入り例年ですと「えりも町」特有の秋風が吹く頃なのですが、今年は残暑の厳しい日々が続いておりました。ガバナーが到着される30分ほど前に「十勝沖地震」があり津波警報が発令される等、当地は騒々しい雰囲気でごガバナーをお迎えしました。例会ではガバナーのお人柄か和気藹々の雰囲気の中でクラブの会員も忌憚のない意見交換ができたことを喜んでおります。また、園ガバナー補佐も出席され当クラブへの本音の要望、活動の参考事例、沢山の貴重なご意見を戴き今後の奉仕活動の参考にしたいと考えております。

少人数のクラブであるゆえの悩み、クラブの地理的な悩み等もガバナーにはご理解を戴いたことと存じます。今後も当クラブは会員相互の親睦とロータリーの奉仕の精神を基調に活動してゆく所存ですので、ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。



千歳セントラルロータリークラブ

9月16日（火）

9月16日、矢橋ガバナー、羽芝ガバナー補佐をお迎えし、公式訪問例会は開催されました。午前9時30分に例会場であるホテル日航千歳に到着された矢橋ガバナーを、当クラブ出身である羽芝ガバナー補佐、当クラブの井上会長、高塚会長エレクトがお出迎えし、まずは午前10時からフリートークの形式で「会長・幹事会」が行われました。その中で、井上会長からポリオプラスに関してビル・ゲイツ財団から1億ドルの資金援助を受け、同額をロータリー財団が寄付を募るという件について、「クラブ一律の寄付額では会員数が少ないクラブに過剰な負担になるのでは？」との質問に「他クラブのご意見、他地区の状況を考慮し、適切な寄付方法を検討することも選択肢です」と、矢橋ガバナーから地区内の多様なクラブ状況を熟知されたお答えを戴くことができました。

会長・幹事会終了後、引き続き「理事会」にご出席戴きました。当クラブは、CLPを導入していますので、「クラブ協議会」は全会員出席の例会扱いとなっているために、「理事会」へご出席戴くことになりました。「理事会」では、井上会長から当クラブの今年度の事業計画、及び過年度からの継続事業の説明を行った後、矢橋ガバナーに各理事から多様な質問があり、矢橋ガバナーから各々の質問に丁寧にお答え戴きました。

午後12時30分から公式訪問例会が開会され、例会の中、ガバナー講話では、矢橋ガバナーは、年度RI会長李東建のRIテーマ「Make Dreams Real」とRI会長強調事項「水、保健と飢餓、識字率向上」に関連する奉仕活動の依頼について概説されました。ガバナー講評の後、高塚会長エレクトの謝辞により閉会致しました。矢橋ガバナーの例会訪問に、会員一同、心から感謝申し上げます！



恵庭ロータリークラブ

9月17日（水）

矢橋温郎ガバナーと羽芝涼一第7グループガバナー補佐をお迎えして、午前10時より会長、幹事、会長エレクト懇談会に始まりCLPについての注意点等で詳しくお話を戴きました。その後、クラブ協議会に会場を移し当クラブ各委員長によります年間事業計画にも熱心に耳を傾けて戴き貴重なご意見ご指導を戴きました。又、ロータリー財団、米山記念奨学会のお話や交換留学生、青少年育成を強力に推進する意義、会員増強がロータリーの至上命題等についてもアドバイスを戴きました。12時30分より例会に入り点鐘、四つのテストなど唱和後、当クラブの恒例であります「スマイル握手」で各会員と和やかな雰囲気のうち公式訪問例会を無事終了致しました。ありがとうございました。



小樽銭函ロータリークラブ

9月18日（木）

当クラブのガバナー公式訪問は9月18日に行われました。早朝10時、矢橋温郎ガバナー、第6グループ佐藤泰視ガバナー補佐の出席を戴き会長・幹事会を開始しました。冒頭、ガバナーよりRIのテーマについて、又地区目標の説明がありました。ポリオ・プラス1クラブ1,000ドルの寄付は21名の少人数クラブでは負担は大きいですが、何とか会員の賛同を得、ガバナーの要望に沿いたいと話しました。その後、クラブ協議会ではクラブの四大奉仕委員会、委員長より今年度の活動方針を報告、又小委員会も報告しガバナーより総評を戴いた。特にガバナーの豊富な経験やロータリー財団、地区内のクラブの活動状況などのお話をして戴き有意義なクラブ協議会になりました。その後、定例の本年第10回例会が行われました。席上、ガバナーよりRIのテーマと4つの地区目標説明の後、2009年6月にイギリスのバーミンガムで行われる第100回国際大会の参加を勧め、和気藹々のうちに終了しました。



札幌あけぼのロータリークラブ

9月19日（金）

当クラブは17名のクラブで、ガバナーが提唱されましたRI強調事項は全員に認識させ行動を共にして行く所存であります。

難題は会員の増強であります。近年ロータリー活動自体を世の人々に理解されずにある中で、地元へ貢献し未来のロータリアンを育成するという長期的な視野と、現ロータリー年長者の協力により会員増強を実施すべく努力中であります。今年度のクラブ方針は「絆を大切に」と致しました。会員とその家族との親密な信頼関係を作りながら、クラブ会員同志の「絆」を強くし会を盛り立てていきます。我がクラブでは会長・幹事、5人の理事・役員を中心にした委員会構成で1年間のスケジュールを立て実行に移してまいります。

社会奉仕については、小さな事から始め地域へ貢献して参ります。世界の貢献には他クラブの計画事項に賛同を得られるものの中から我がクラブとして協力して行く所存であります。この1年間、矢橋ガバナー、大島ガバナー補佐におかれましては、ご多忙かと存じますがご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



倶知安ロータリークラブ

9月24日（水）

午前10時より、矢橋温郎ガバナーと佐藤泰視第6グループガバナー補佐をお迎えして斉藤会長、長谷次期会長、石本幹事が同席して懇談会を開催しました。そこで会長の目標職業倫理について例会で勉強会を実施したい。家族会の開催は日曜日に行い多数の家族に参加をして戴き、会員同士の親睦を深め、出席率の向上と退会者の防止に努めたい。定款・細則の変更の取組中で10月第3水曜日の理事会で決定する予定と報告致しました。それからクラブ協議会を開催し、各委員長より活動計画を発表し、ガバナーよりアドバイスを戴きました。倶知安RCのSAAはずいぶんさびしい人なのですねと言われました。



12時15分より例会を開催し、矢橋ガバナーより国際協議会に出席した際のSAAの権威の強さ、ガバナーの目標を話して戴きました。4つのテストの唱和は毎月行っております。1クラブ1,000ドルは実施致しました。あと1名以上の会員増ですが今努力中です。何とかガバナーの目標に沿ったクラブにして行きたいと思っております。有難う御座いました。今後とも宜しくお願い致します。（斉藤会長談：私事ですが、私が新婚だからと妻に花束を戴き有難う御座いました）

苫小牧ロータリークラブ

9月26日（金）

9月26日、待ち合せ場所（グランドホテルニュー王子）にてお出迎えをし、板谷ガバナー補佐、得能会長、渡辺会長エレクト、櫻田幹事、山崎広報委員長と共に苫小牧市役所を表敬訪問致しました。中野副市長との懇話の中で、「私も苫小牧RCの奨学金を高校生の頃頂いておりました。」というお話から始まりガバナーとしての役割等々共通の話題で盛り上がりました。会場のホテルに戻り、会長・幹事懇談会、クラブ協議会、公式訪問例会にご出席頂きました。



会長・幹事懇談会では、訪問された各クラブの現状をお話し頂き、共通の悩みに触れられ、今後のクラブ運営に向けて大変参考になりました。クラブ協議会の中で、「苫小牧RCは伝統もあり格式も高いクラブであります。得てしてそういうクラブに共通することですが、」と前置きされ『事業数が少ない』というご指摘は、今後改善する事項と捉えております。また、クラブ協議会に委員長が全員出席して貰ったとお言葉を頂き感謝の念にたえません。公式訪問例会ではRI会長方針「夢をかたちに」、ガバナー地区目標について解りやすくお話をいただき、今年度のクラブ目標達成のために役立ててまいります。

長万部ロータリークラブ

9月29日（月）

矢橋温郎ガバナーと第10グループ上野一義ガバナー補佐、そして大金武夫地区代表幹事をお迎えして、ガバナー公式訪問が行われました。朝10時から会長・幹事懇談会が行われ、当クラブは会員数10名のミニクラブの現況など説明し、矢橋ガバナーは良く当クラブの現況を把握されていて、社会奉仕活動等にお褒めの言葉を戴いて大変励まされました。

10時30分からは長万部町長への表敬訪問もして戴き、11時から各委員長を中心としたクラブ協議会を行いました。例会では当地名物かにめしの昼食の後、矢橋ガバナー、上野ガバナー補佐、大金地区代表幹事、それぞれからお話を戴き今年度の地区目標の説明を詳しくお話され、当クラブも目標達成に向け邁進して行きたいと思っております。



ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

■メジャードナー

函館東RC 池垣清信 会員 10月 7日

■マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

札幌RC 松本脩三 会員(5回) 10月24日
 長沼RC 青木雄一 会員(1回) 10月 3日
 長沼RC 天野敦子 会員(1回) 10月 3日
 長沼RC 清水彰 会員(1回) 10月 3日
 長沼RC 高木繁秀 会員(1回) 10月 3日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

■米山功労者

深川RC 板倉克宏 会員(2回) 10月30日
 深川RC 宮岸徹二 会員(1回) 10月30日
 深川RC 中澤清 会員(4回) 10月30日
 岩見沢RC 北市宗三 会員(4回) 10月21日
 岩見沢RC 向田甚市 会員(4回) 10月21日
 函館RC 太刀川善一 会員(13回) 10月 9日

■米山功労クラブ

深川RC 13回 10月30日



(254号)

【ロータリー文庫】は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

地区大会記念講演から

◎ [私の考える経営]

伊藤謙介 2008 8p (D.2690)

◎ [構造改革とこれからの日本経済]

竹中平蔵 2008 8p (D.2660)

◎ [日本のこれから、日本人のこれから]

藤原正彦 2008 8p (D.2580)

◎ [津波が変えた私の人生]

道下俊一 2008 10p (D.2780)

◎ [命を地域で支える]

あたたかな人と人とのつながりをつくろう

鎌田 實 2007 15p (D.2550)

◎ [未知への挑戦]

～箱根駅伝・アテネオリンピックなどを振り返り

澤木啓祐 2008 13p (D.2510)

◎ [メジャーリーグに学ぶ経営戦略]

～日本人の知らないメジャーの常識と人づくり

タック川本 2008 20p (D.2790)

◎ [薩摩の郷中教育と薩摩焼]

西郷隆文 2008 16p (D.2690)

[上記申込先: ロータリー文庫(コピー/PDF)]

◎ [ロータリーモザイク]

ハロルド T. トーマス著 松本兼二郎訳

2006 329p

50年間のロータリーライフに基づき、一人のロータリアン(元RI会長)が綴った1905~1970年までのロータリーの思想・方針とプログラム、そしてロータリアンのそれぞれの進化の物語です。彼は「ロータリーはロータリアンすべての参加によって初めて出来たものである」と述べています。本書を一読することにより、全てのロータリアンに与えられているロータリー運動への参加の機会と可能性と期待とがはっきり認識できるでしょう。

[申込先: ロータリー文庫 領価1,500円]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
 TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506

http://www.rotary-bunko.gr.jp
 開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

12月のロータリーレート 1ドル=96円

新 入 会 員 の ご 紹 介 (敬称略)



中垣 陽一
(滝川IRC)
■入会/ 7月3日
■職業分類/ 脳神経外科



山口 恵子
(滝川IRC)
■入会/ 7月3日
■職業分類/ 飲食業



奥山かおる
(滝川IRC)
■入会/ 10月9日
■職業分類/ 冠婚業



平田 隆
(岩内RC)
■入会/ 9月1日
■職業分類/ 建設業



齋藤 貴之
(札幌モーニングRC)
■入会/ 9月3日
■職業分類/ 都市建築設計



佐藤 良恵
(由仁RC)
■入会/ 9月18日
■職業分類/ 福祉施設



斉藤 昌一
(札幌北RC)
■入会/ 10月20日
■職業分類/ 一般旅行業



米山 道男
(札幌北RC)
■入会/ 10月20日
■職業分類/ 留学生教育

訃 報



土倉 裕之 会員(札幌東RC)
2008年11月7日ご逝去(享年56歳)

【ロータリー歴】

- 1985年7月4日 入会
- 1993~1994年度 世界社会奉仕委員長
- 1997~1998年度 国際奉仕委員長
- 1998~1999年度 社会奉仕委員長
- 2008~2009年度 世界社会奉仕副委員長
- 1994~1996年度 地区青少年交換委員
- 2001~2004年度 地区世界社会奉仕委員長
- 2005~2006年度 地区幹事

ポール・ハリス・フェロー

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2008.10.31	増減	内女性	
1	深 川	4	36	36	0	3	88.32
	羽 幌	4	48	48	0	1	84.33
	妹 背 牛	4	9	9	0	0	80.56
	小 平	5	14	14	0	0	72.86
	留 萌	4	45	45	0	0	91.88
	小 計		152	152	0	4	83.59
2	赤 平	3	29	28	-1	1	88.00
	芦 別	4	44	44	0	0	91.03
	砂 川	5	52	55	3	0	94.91
	滝 川	5	99	101	2	2	77.00
	小 計		224	228	4	3	87.74
3	美 唄	4	38	38	0	0	89.10
	江 別	5	34	34	0	1	89.41
	江 別 西	4	27	29	2	3	90.51
	岩 見 沢	5	87	90	3	0	93.86
	岩 見 沢 東	3	34	35	1	4	82.30
	栗 沢	5	23	24	1	1	93.60
	栗 山	4	26	27	1	2	99.00
	当 別	4	34	34	0	0	91.05
	小 計		303	311	8	11	91.10
4	札 幌	4	117	124	7	0	98.40
	札幌あけぼの	5	18	17	-1	1	100.00
	札幌はまなす	4	25	25	0	4	71.74
	札 幌 北	3	43	44	1	6	94.29
	札幌モーニング	5	49	52	3	0	78.88
	札 幌 西	4	62	63	1	4	94.05
	札 幌 西 北	4	39	40	1	5	93.92
	札 幌 手 稲	4	34	35	1	1	99.29
	小 計		387	400	13	21	91.32
5	札 幌 東	5	120	125	5	0	97.10
	札 幌 清 田	4	18	18	0	4	100.00
	札 幌 幌 南	4	65	66	1	0	100.00
	札 幌 真 駒 内	4	35	36	1	3	94.36
	札 幌 南	3	92	93	1	0	96.47
	札幌大通公園	3	9	9	0	2	92.60
	札幌セントラル	4	14	14	0	6	66.10
	新 札 幌	5	32	32	0	3	91.85
	小 計		385	393	8	18	92.31
6	岩 内	4	21	22	1	0	80.59
	俱 知 安	5	46	46	0	4	74.56
	小 樽	4	69	70	1	0	83.72
	小 樽 南	5	73	74	1	0	86.01
	小 樽 銭 函	4	21	21	0	2	75.00
	蘭 越	3	11	11	0	0	78.78
	余 市	5	39	41	2	4	88.50
	小 計		280	285	5	10	81.02

10月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,816人
当月末会員数(女性)	2,874人(100人)
増加会員数	58人
当月平均出席率	85.98%

グループ	クラブ名	例 会 数	会 員 数				出席率
			2008.7.1	2008.10.31	増減	内女性	
7	千 歳	5	63	64	1	3	76.60
	千歳セントラル	4	35	35	0	1	84.30
	恵 庭	4	39	40	1	0	80.91
	北 広 島	4	17	17	0	0	92.64
	長 沼	2	20	20	0	3	80.00
	由 仁	5	10	11	1	1	74.00
	小 計		184	187	3	8	81.41
8	え り も	4	22	22	0	0	97.72
	三 石	3	15	15	0	1	93.33
	様 似	3	23	24	1	1	88.00
	静 内	5	72	73	1	1	86.97
	浦 河	4	34	34	0	2	97.79
	小 計		166	168	2	5	92.76
	9	伊 達	4	53	54	1	0
室 蘭		4	43	45	2	0	72.27
室 蘭 東		4	41	41	0	0	66.88
室 蘭 北		4	34	34	0	2	100.00
登 別		5	31	31	0	2	80.64
洞 爺 湖		5	9	9	0	0	85.00
小 計			211	214	3	4	79.81
10	函 館	4	87	89	2	0	77.61
	函 館 亀 田	3	45	46	1	2	99.24
	森	4	34	35	1	0	72.20
	七 飯	4	16	16	0	0	71.80
	長 万 部	4	10	10	0	0	85.00
	函館セントラル	4	24	26	2	1	76.92
	小 計		216	222	6	3	80.46
11	江 差	4	19	19	0	1	75.00
	函 館 五 稜 郭	4	55	57	2	0	100.00
	函 館 東	4	45	45	0	4	85.87
	函 館 北	4	30	30	0	0	93.11
	北 斗	5	19	17	-2	2	60.00
	松 前	3	5	5	0	0	75.00
	小 計		173	173	0	7	81.50
12	白 老	4	26	27	1	0	78.00
	苫 小 牧	4	50	54	4	2	80.33
	苫 小 牧 東	4	25	26	1	2	86.54
	苫 小 牧 北	4	34	34	0	2	94.63
	小 計		135	141	6	6	84.88
合 計		2,816	2,874	58	100	85.98	

地区カレンダー（12月・1月）

12月 家族月間	
1 (月)	
2 (火)	公式訪問（札幌西RC）
3 (水)	
4 (木)	
5 (金)	
6 (土)	地区インターアクト委員会（札幌）
7 (日)	地区青少年交換受入学生送別会（札幌）
8 (月)	
9 (火)	
10 (水)	地区補助金委員会（札幌）
11 (木)	
12 (金)	
13 (土)	次期地区ガバナー補佐会議（札幌）
14 (日)	
15 (月)	
16 (火)	
17 (水)	
18 (木)	
19 (金)	
20 (土)	
21 (日)	
22 (月)	
23 (火)	天皇誕生日
24 (水)	
25 (木)	
26 (金)	
27 (土)	地区ガバナー指名・諮問委員会（札幌）
28 (日)	
29 (月)	
30 (火)	
31 (水)	

1月 ロータリー理解推進月間	
1 (木)	元日
2 (金)	
3 (土)	
4 (日)	
5 (月)	
6 (火)	
7 (水)	
8 (木)	
9 (金)	
10 (土)	2009学年度米山奨学生選考試験（札幌）
11 (日)	
12 (月)	成人の日
13 (火)	
14 (水)	
15 (木)	
16 (金)	
17 (土)	地区ガバナー補佐会議（札幌）
18 (日)	～25 (日) 国際協議会（米国・サンディエゴ）
19 (月)	
20 (火)	
21 (水)	
22 (木)	
23 (金)	
24 (土)	
25 (日)	
26 (月)	
27 (火)	
28 (水)	
29 (木)	
30 (金)	
31 (土)	

■米国の金融危機の影響について

ロータリアンの皆さま

ここ数週間の米国金融市場の悪化に関するニュースを受け、この状況が国際ロータリーとロータリー財団に与える影響について、多くのロータリアンから問い合わせをいただきました。私たちの投資は短期的に損失を受けるものと思われませんが、金融市場がひとたび安定すれば投資は回復すると、私たちは信じています。また、ロータリーは、最近の金融業界の悪影響を免れた市場にも投資を行なっているなど、ポートフォリオの多様化を維持しています。ロータリーの投資方針は、これまでも不況に耐えうる健全性を実証してきました。このような慎重な投資管理から判断し、ロータリーのプログラムとプロジェクトをこれまで通り続行することに支障はないものと思われま

す。多くのロータリアンから、特に安定株や保険、予備金に関するお問い合わせをいただきましたので、これらの点についてご説明いたします。

- ロータリー財団とRIの投資ポートフォリオは、米国政府の買取りの対象となった企業（ファニー・メイ、フレディ・マック、AIG）、ほかの金融企業に買収された企業（メリルリンチとWaMu）、会社更生法を申請した企業（リーマン）とは、ほとんど関わりがありません。
- RIはAIG保険に一部加入していますが、同社の保険業務は州と連邦当局に厳密に規制された別個の法人として運営されているため、安全です。
- RIと財団は、ともに、多くのキャッシュ残高を保有しており、本年度現在までの投資以外の収入は、昨年度を上回っています。
- ポリオ・プラス基金の全資金は米国債に投資されており、これは最も安全な投資先です。
- RIと財団は、ともに、損失の際に投資債権を売らずに運営していけるだけの予備金を備えています。

先週、ロータリー財団投資諮問委員会が、ロータリーの独立投資コンサルタントおよび複数の資金運用会社の担当者と会合し、定期的な投資の見直しを行いました。委員会は、RI理事会とロータリー財団が定めた現在の投資方針が、長期的には今後もふさわしいものであることに改めて同意しました。委員会は、どの市場が悪化しても影響を最小限に抑えるため、さらにポートフォリオの多様化に努めるよう管理委員会に提案しました。

ロータリーのシニア・リーダー、事務総長、財団担当職員、ロータリーの投資コンサルタントが状況を注意深く見守っていくことを、皆さまにお約束いたします。私たちの投資と予備金の方針により、ロータリーは今後も世界中で良いことを行なっていけるものと、私たちは確認しております。

心を込めて

国際ロータリー事務総長 エド・フタ（布田）

■次回のGSEプログラムに想う

この度のGSEは今、国民的テーマとして注目されている「スウェーデンの福祉介護」の現状視察並びに体験を目的としたものであり、これからの日本の福祉を担う若い職業人4人と共に学べるということは、大変有意義な事と心が動かされました。思えば17年前にスウェーデンから最初の交換留学生を受け入れた時の思い出が走馬灯のように浮かんで来ますが、彼女、カイセン・ハンソンさんは今ストックホルムの銀行で働きながらフィアンセとの結婚の準備に忙しい日々を送っているとの事ようです。今もって家族付き合いが続けられるのもロータリープログラムの素晴らしさと思っております。

私は、ロータリー活動のエネルギーの大半を交換留学生や財団・米山の若い方々と共に成長する時間に投入してまいりました。若く希望に満ちた人々の澄んだ瞳が好きです。今回も4人の北海道の若者やスウェーデンで出会う同世代の方々とより親密な交流が出来ると思うと胸がときめく思いであります。未熟な英語技術力、年相応の健康不安もないわけではありませんが、若い方々との交流の喜びや期待の方が勝りリーダーをお引受させていただく決心を致しました。各クラブの皆様には、志高き若き福祉人のご推挙をどうぞ宜しく願い申し上げます。

締め切りは2009年1月15日となっておりますが、各クラブを通じてお申込下さい。

なお、詳細はGSEのホームページをご覧ください。 <http://www.ri2510.gr.jp/gse/>

GSEチームリーダー 奥貫一之（札幌東RC）

《例会曜日・例会時間・例会場の変更等について》

- 栗山 RC：例会曜日と例会時間を1月より下記に変更しますので宜しくお願い申し上げます。
火曜日 12:30 → 変更後 月曜日 12:15
- 札幌あけぼのRC：例会場と昼食会場を12月5日より下記に変更しますので宜しくお願い申し上げます。
例会場：ISHIYA内「白い恋人パーク」チュダーハウス2階会議室
昼食会場：レストラン「おうるず」
札幌市西区宮の沢2-2-11-36 電話011-666-1483
※例会変更時のメーキャップ受付は、札幌あけぼのRC事務局で行います。
- 江別 RC：12月18日(木)家族例会 18:30～ 場所：江別市民会館
12月25日(木)、1月1日(木)休会
- 岩見沢 RC：12月18日(木)の例会を下記に変更します。
12月20日(土)家族忘年会 18:00～
12月25日(木)休会
事務局の年末年始休業：12月27日(土)～1月5日(月)
緊急の場合は幹事までお願い致します。
- 岩見沢東RC：12月23日(火)、30日(火)休会
- 小樽 RC：12月9日(火)忘年家族会 17:30～ 場所：ヒルトン小樽
12月23日(火)、30日(火)休会
- 千歳 RC：12月4日(木)休会
12月11日(木)移動例会 場所：ミツミ電機
12月18日(木)クリスマス家族会 18:30～
- 長沼 RC：12月29日(月)休会
- 室蘭 RC：12月18日(木)夜間例会 18:00～ 場所：室蘭プリンスホテル
12月25日(木)休会
- 室蘭東RC：12月3日(水)、31日(水)休会
- 室蘭北RC：12月16日(火)夜間例会「クリスマス家族例会」 18:30～
場所：ホテルサンルート室蘭
12月23日(火)、30日(火)休会
- 白老 RC：12月16日(水)忘年会 18:30～
場所：ウッディ(白老パークゴルフクラブハウス 白老町石山1-1)
12月23日(火)、30日(火)休会
- 苫小牧 RC：12月19日(金)の例会を下記に変更します
12月17日(水)夜間例会「クリスマス会・忘年会」 18:00～
場所：グランドホテルニュー王子

編集後記

年度前半に行われるガバナー公式訪問と年次大会はガバナーの最も大事な仕事の柱である。

年間を通じてこの二大行事がガバナーの精力の7～8割方を占めているといっても過言ではない。その準備から完結まで出身母体クラブの会員を総動員しての大変なエネルギーが消耗される。10月25日、26日に焦点を合わせて繰り広げたホストクラブとしての狂奏曲も終わりを告げ、何が残されたのか気になるところである。地区内の大勢のメンバーを誘い、さてその成果はどうだったのか、どんな印象を残したか、その結果についてはこれから色々伝えられるであろう。兎も角終わった。祭は終わった。感謝。

毎大会で気になる事の一つに開会中の参加者の中途退席である。本会議の午前中の一連のセレモニーが終わり、RI会長代理が演台に立つ頃になるとバラバラと会員の退席が始まる。

遠来の賓客に対してハラハラする場面である。そして午前中のシーンが終るとかなりの人々が街中へ出るか何処へか消える。お陰で心配のタネであった昼食弁当が余った。午後の講演会は、当方としてはあれ程の講師をお迎えしたのにかなりの空席が目立った。何時の大会でもそうであるように。こういった現象は会員の自覚の問題か、または大会企画の問題なのか、いつも当事者の悩みのタネと思われる。

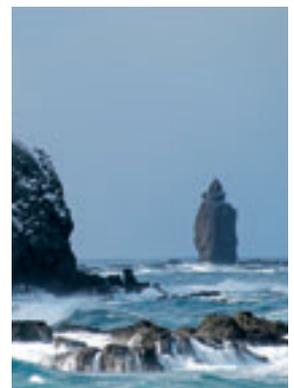
月信5号(11月号)が大会準備と重なり配布が数日遅れた事をお詫びしたい。月信5号は財団月間の特集でした。各関係委員長に登場をお願いし、それぞれの立場からその意義、現状、手法等ご案内戴きました。特別企画の塚原PGのノートもいよいよ序論を終え、本論へと入ってきております。又、札幌大通公園RCの提案、読者はどう捉え、どう反応するか気になるところです。(大金)

ガバナー事務所

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512
E-mail:rid2510@nifty.com 執務時間:10:00～17:00(土・日・祝祭日休み)



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510
2008～2009
GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



表紙：積丹半島・ローソク岩
撮影：村上 登 札幌西RC